



石川芳雲会長の挨拶



上：揮毫する石川会長、下：祝賀会での作品交換



左、下：展覧会場での金鼎牌筆工場による筆の実演販売



左：太湖のほとりでの祝賀会の様子

「第十九回 日中蘭亭書法交流 蘇州展」(会場：太湖芸術中心)は、吳中区書法協会との共催で、六月三十日から七月三日の会期で開催しました。今回は会期直前での急な会場変更となりましたが、吳中区書法協会をはじめとする、現地関係者の協力により、無事開催することができました。出品点数は計一九一点(日本九九点、中国二二点、香港四一点、台湾二九点)となりました。

日中両国の書道家に加え、十六回展の共催団体である香港書法藝術研究会の一行も駆けつけた開幕式は、友好ムード満点の賑やかな祝典となりました。代表者による挨拶では、石川芳雲会長が吳中四才子に触れ、多くの文人墨客を輩出した蘇州への憧れを述べると、盧月龍主席が現代の中国書壇における良寛ブームについて紹介するなど、日中書法交流の歴史と絆の強さが強調されました。金鼎牌筆工場による実演販売も行われ、伝統的な筆作りの工程について広く紹介する機会にもなりました。開幕式後、会場内の一室で日中書家による揮毫交流が始まると、多くの来場者が詰めかけて注目し、作品が完成する度に大きな拍手が沸き起こりました。

隣接するホテルに会場を移して始まった懇親会の中で、揮毫交流作品の披露と交換が行われました。作品が交換され、日中書家が固い握手を交わすと、会場全体が今回の成功と両会の友好を祝す和やかな雰囲気になりました。中国より贈られた作品は、来年の東京展(会期：二〇一九年七月三日から七日・会場：東京都美術館)での展示を予定しておりますので、どうぞご期待下さい。